

令和 2 年度
第 2 回みと好文カレッジ運営審議会

日 時 令和 3 年 3 月 4 日 (木)
午後 2 時 00 分～
場 所 水戸市総合教育研究所
2 階 研究室 5・6

みと好文カレッジ

【次 第】

1 開会

2 あいさつ

3 議題

- (1) 令和2年度みと好文カレッジ事業実施報告について
- (2) 令和3年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標について
- (3) 令和3年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策（案）について
- (4) その他

4 閉会

(1) 令和2年度みと好文カレッジ事業実施報告について

1 市民センターへの支援・指導

(1) 東湖塾の開催

ア 新任職員研修

(ア) 集合研修

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
4月14日(火)	市民センターについて、生涯学習の推進についてほか	市民生活課職員、みと好文カレッジ職員ほか	新任所長、会計年度任用職員 23人	新任所長、新任嘱託員 23人

(イ) 訪問研修

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
前期5月～7月 後期10月～12月	市民センターにおける生涯学習事業の推進方策等について	みと好文カレッジ職員	新任所長及び新任嘱託員 計年度任用職員 前期11回 14人 後期11回 13人	新任所長及び新任嘱託員 前期14回 18人 後期16回 20人

イ 全体研修

(ア) 集合研修

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
未実施	—	—	—	所長 27人

(イ) ブロック研修（意見交流会）

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
8月20日(木)	(南部ブロック) 現代的課題を取り入れた講座の開設方法について	みと好文カレッジ職員	南部ブロック会計年度任用職員 7人	常澄ブロック嘱託員 5人
8月28日(金)	(内原ブロック) 現代的課題を取り入れた講座の開設方法について		内原ブロック会計年度任用職員 6人	東部ブロック嘱託員 6人

(ウ) 訪問研修

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
前期5月～7月 後期10月～12月	市民センターにおける生涯学習事業の推進方策等について	みと好文カレッジ職員	所長及び社会教育事業担当者 前期23回 29人 後期25回 31人	社会教育事業担当者 前期21回 23人 後期19回 21人

ウ 学習プログラム作成研修（ブロック研修）

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
①7月2日（木） ②7月30日（木） ③8月18日（火） ④9月4日（金）	（中央ブロック） 現代的課題や地域課題の 見出し方や課題解決のた めの学習プログラム作成 に関する知識や技術を習 得する。	みと好文カレッジ 職員	中央ブロッ ク会計年度 任用職員 5人	西部ブロッ ク嘱託員 6人

(2) 好文塾

ア ブロック単位

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
①11月6日（金） ②11月20日 （金） ③12月4日（金）	（中央ブロック） 「地球が大変!!私達にで きる事～身近な知識で、 未来につなげるエコライ フを学んでみませんか!! ～」	①環境保全課職員 ②ごみ減量課職員 ③（移動学習）	中央ブロッ ク地区役員 定員15人（各 地区3人） 参加者 延 40人	西部ブロッ ク住民 定員35人 参加者 延 83人

イ 単独

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
未実施	—	—	—	4講座、延7 回 各地区住民 延107人

2 全市的な生涯学習の推進

(1) みと弘道館大学の開催

ア 茨城しぐさ

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
申込みなし	「相互扶助」や「共生」 の精神を学び、「お互いが 仲良く、気持ちよく生活 する」ための方策を考え る。	特定非営利活動法 人 ひと・まちね っとわーく	—	市立小中学 校6校、延 540人

イ ゼロからはじめるシニアパソコン教室

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
未実施	シニア世代にインターネ ットの使い方や簡単な文 書作成などを体験し、I Tをより身近に感じてい ただく。	水戸女子高等学校 商業科教諭 ※商業科生徒がア シスタントとして 協力	—	概ね50歳以 上の水戸市在 住のパソコン 初心者 定員20人 応募者60人 参加者20人

※水戸女子高等学校共催

ウ 水戸市生涯学習サポーター協働企画講座

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
未実施	—	—	—	7講座, 延 24回, 延 621人

(2) 子育て応援塾の開催

ア 家庭教育講座（旧親業訓練入門講座）

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
11月8日（日）	～ありのままの自分を尊重して親も子もハッピーライフ～ グループディスカッションやロールプレイングなどの体験学習をとおして、親と子がお互いを大切にしながら日々を過ごすための方法を学習する。	コミュニケーションインストラクター・子育てハッピーアドバイザー・心理カウンセラー 中島由佳子	市内在住又は在勤で子育てに関心のある16歳以上の方（子育て中の方優先） 定員 30人 応募者 30人 参加者 24人	妊娠期の母親、乳幼児期～高校生を持つ保護者等 定員 20人 応募者 24人 参加者 16人

イ 家庭教育出前講座

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
12月14日（月） 中止	子どもの心のケアに役立つコミュニケーション	心理カウンセラー・思春期保健相談士・CAPスペシャリスト 中島由佳子	渡里幼稚園の保護者 60人予定	4園, 延 213人
12月15日（火） 中止			渡里幼稚園の保護者 60人予定	
令和3年 2月20日（土） 中止	生きる力を育てる子育て10カ条	ひと・まちねっとわーく事務局次長・水戸市生涯学習サポーター 綿引均	すずらん石川保育園の保護者 40人予定	

(3) 「さきがけ塾」の開催

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
10月～翌年12月 毎月第2・4水曜日開催	市民生活を豊かにする学習プログラムを考え、実施に向けた方法を探り、行政が主催する講座の企画・実施に参画する人材の育成を図る 理論編 22回, 実習編 4回, 実践編 4回程度	茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川幸介 ほか	生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民 定員 30人 応募者 18人 参加者 14人	生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民 定員 30人 応募者 13人 参加者 13人

※詳細は別紙

(4) 「ほっとひといき夢らんど」の開催

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
Aコース 10月～翌年 1月 毎月第1木 曜日 全4回	就園前に集団の中で 子ども同士が遊んだ り、専任ボランティア のメンバーと意見交 換を行う場を提供す る	キッズヨガイン ストラクター 子安美穂 ベビーマッサージ 協会 渡邊江津子 ヒップホップイ ンストラクター 日座芽久美 戸鞠彩也佳 ほか	Aコース, Bコース 市内在住1歳6 か月～4歳未満 の未就園児と保 護者	Aコース 市内在住1歳6 か月～2歳6か 月の未就園児と 保護者 9回 定員 25組 応募者 64組 参加者 25組 (延 163組, 333 人)
Bコース 10月～翌年 1月 毎月第3木 曜日 全4回 1月分は3 月に延期			定員 各コース 15組 応募者 27組 参加者 Aコース 7組 (延 23組, 46 人) Bコース 7組 (延 15組, 30 人 ※2月まで の実績) (延 20組, 40 人)	Bコース 市内在住2歳6 か月～4歳未満 の未就園児と保 護者 10回 定員 25組 応募者 33組 参加者 25組 (延 167組, 352 人)

※詳細は別紙

(5) 「あなたも師・達人制度」の活用促進

	登録者数 (人)	派遣依頼件数 (件)	派遣件数 (件)	派遣人数 (人)
令和2年度	291	4	3	3
令和元年度	281	12	8	8

(6) 育児ボランティア「えくぼ会」制度の利用促進

	登録者数 (人)	派遣件数 (件)	派遣人数 (人)	預かった子ども (人)
令和2年度 活動休止	53	—	—	—
令和元年度	53	45	270	559

ウ 育児ボランティア研修会の開催

月日	内容	講師	参加者	令和元年度
9月3日(木)	普通救命講習Ⅲ	社団法人 水戸地区救急普及協会	育児ボランティア「えくぼ会」会員 12人	育児ボランティア「えくぼ会」会員 18人
令和3年 3月3日(木)	効果的な絵本の読み聞かせのポイントと絵本の選び方	読み聞かせボランティア 佐藤慶子, 小菌井かおる	育児ボランティア「えくぼ会」会員 1人	育児ボランティア「えくぼ会」会員 15人

(7) 学習情報の提供

- ア 水戸市ホームページ, みと好文カレッジホームページへの事業等の掲載
- イ みと好文カレッジ情報誌の発行
- ウ 「ほっとひといき夢らんど～お家あそび～特別バージョン」をみと好文カレッジホームページで連載

(8) 学習相談事業の充実

ア 相談者状況(件)

	行政	団体	個人	合計
令和2年度	6	2	17	25
令和元年度	14	4	44	62

イ 相談・情報提供状況(件)

	学習機会	施設	指導者	団体・グループ	教材(図書)	その他	合計
令和2年度	12	0	5	0	0	8	25
令和元年度	40	1	8	1	0	12	62

ウ 相談方法状況(件)

	電話	面談	FAX	メール	合計
令和2年度	22	3	0	0	25
令和元年度	59	0	3	0	62

(9) 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

- ア NPO法人 ひと・まちなっとわーくとの連携事業「茨城しぐさ」
- イ 水戸女子高等学校との連携事業「みと弘道館大学 ゼロからはじめるシニアパソコン教室」
※ア, イとも「2 全市的な生涯学習の推進 (1) みと弘道館大学の開催」参照
- ウ 県生涯学習・社会教育研究協議会や地区別生涯学習推進事業への職員派遣

(10) 水戸市訪問型家庭教育支援事業

ア 水戸市訪問型家庭教育支援推進協議会の開催

協議会委員6名

開催回数	日時
2回(予定)	令和2年8月19日(水)午後10時～ 令和3年3月25日(木)午後2時～(予定)

イ 水戸市訪問型家庭教育支援員による家庭訪問等の実施

支援員 4 名

	ケース会議（回）	訪問世帯数（世帯）	訪問回数（回）
令和 2 年度	8	10	18
令和元年度	7	4	8

ウ 広報活動

- (ア) 水戸市ホームページ掲載
- (イ) 保健所・子ども課にチラシ配布依頼
- (ウ) 子育て支援総合ガイドブック掲載
- (エ) 幼稚園・保育所等にチラシ配布依頼
- (オ) 市立小学校等にチラシ配布依頼
- (カ) 市民センターにチラシ設置依頼
- (キ) 「広報みと」(11月1日号) に記事掲載
- (ク) SNS (公式LINE, Twitter, Facebook) にて情報配信

エ 対象者の掘り起し

- (ア) 市立小学校訪問
- (イ) 市立幼稚園・認定こども園訪問

別紙

「さきがけ塾」理論編の内容等

回	開催日	内 容	講 師	参加者
1	10月21日(水)	開講式 元気な明日を目指すまちづくり・ひとづくり①	茨城県生涯学習・社会教育研究会会長 長谷川幸介	13人
2	10月28日(水)	アイスブレイク及びコミュニケーション能力の育成とその実践	元県学校教育相談研究会会長 内田 裕	10人
3	11月11日(水)	魁のまち・水戸を目指して	水戸市政策企画課職員	12人
4	11月25日(水)	水戸のいきいき健康プロジェクト	水戸市保健所 地域保健課職員	11人
5	12月2日(水)	元気な明日を目指すまちづくり・ひとづくり②	茨城県生涯学習・社会教育研究会会長 長谷川幸介	12人
6	12月16日(水)	水戸の防災を学ぶ	水戸市防災・危機管理課職員	11人
7	1月13日(水)	いきいき長生き健康法と実践	茨城大学教育学部 教授 富樫 泰一	9人
8	1月27日(水) 中止	水戸の歴史を学ぶ	水戸市教育委員会 歴史文化財課職員	—
9	2月10日(水)	まちづくりとボランティア活動	茨城キリスト教大学 兼任講師 池田幸也	12人
10	2月24日(水)	学習プログラムづくりの実践	ひと・まちねっとわーく 理事 高瀬利博	11人
11	3月10日(水)	学習プログラムづくり① コース別 ブレインストーミング	ひと・まちねっとわーく 理事 高瀬利博	10人
12	3月24日(水)	学習プログラムづくり② ブレインストーミング	ひと・まちねっとわーく 理事 高瀬利博 生涯学習サポーター 綿引 均, 小平文和	9人

「ほっとひといき夢らんど」の内容等

回		開催日	内容	講師	参加者
1	A コース	10月1日(木)	親子ヨガ	キッズヨガインストラクター 子安美穂 ベビーマッサージ協会 渡邊江津子 夢らんど専属ボランティア	5組 10人
	B コース	10月15日(木)			5組 10人
2	A コース	11月5日(木)	親子ヒップホップ	ヒップホップインストラクター 日座芽久美 戸鞠彩也佳 夢らんど専属ボランティア	7組 14人
	B コース	11月19日(木)			4組 8人
3	A コース	12月3日(木)	クリスマス (工作とミニコンサート)	夢らんど専属ボランティア 水戸子どもの劇場 みとびよ音楽隊 Wa'mくーる代表 佐藤友美乃	5組 10人
	B コース	12月17日(木)			6組 12人
4	A コース	1月7日(木)	風船人形作り	夢らんど専属ボランティア ピアノボランティア 井上文代 Wa'mくーる代表 佐藤友美乃	6組 12人
	B コース	1月21日(木) 延期 3月11日(木) [予定]			5組 10人

(2) 令和3年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標

運 営 方 針

近年、人口減少社会や超高齢社会の到来をはじめ、都市化の進展、価値観の多様化、生活圏の拡大など、市民を取り巻く状況は大きく変化している。

こうした状況にあっても、市民が安心して暮らし、幸せを感じられるまちを形成していくためには、今後ますます地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進が必要となる。

市民センターにおいては、コロナ禍における感染症対策を徹底したうえで、地域コミュニティ活動の拠点として、その継続や発展に向けた支援に努めるとともに、生涯学習活動の拠点として、その充実や成果を生かす環境づくりに努め、さらには、東日本大震災や令和元年東日本台風での経験を踏まえ、地域防災活動の拠点としての機能充実を図っていくものとする。

重 点 目 標

1 地域コミュニティ活動の推進

(1) 地域コミュニティ活動の活性化

ア 地域自らが地域の将来像や課題を共有し、特色のある地域づくりや課題の解決を進めることができるよう、地域コミュニティプラン実現に向けた取組への支援を促進し、住みよいまちづくり推進協議会を中心とした自主的な活動を推進する。

イ 各種コミュニティ団体等の活動を支援するとともに、NPO等との連携を促進しながら、よりよい地域づくりに向けた情報の共有化を進めるなど、地域コミュニティ推進体制の充実、連携強化を図る。

ウ 町内会・自治会への参加意識や自治意識の高揚を図るため、地域団体や関係機関と連携強化を図り、地域コミュニティ活動内容を積極的に発信するとともに、地区会の基盤である町内会・自治会の加入率の向上に努める。

エ 市民自らが意欲を持って地域活動に参加できるよう、一人一役運動を進めるほか、人材育成のための研修会を通して、地域を支えるリーダーづくりを推進する。

(2) 地域コミュニティ活動環境の充実

市民センターにおける様々な活動環境の一層の充実に向け、施設の利用状況や地域の実情等にあわせたコミュニティルームの積極的な利用を促進するとともに、長寿命化型改修の実施及び施設の利用者数や周辺の状況等を踏まえつつ狭あい駐車場の解消に努める。

(3) 地域防災活動との連携

災害発生時の初動対応については、地域における防災組織が重要な役割を担うものであることから、平常時より、地域での防災訓練への支援、地域における災害リスクや連絡体制の確認を行うなど、地域における防災組織との連携を図る。

2 生涯学習活動の推進

(1) 学習機会の充実

生涯学習活動の拠点施設である市民センターにおいては、どのような状況下でも学びを止めることなく、「個人の要望」する学習による生きがいを進めるとともに、家庭教育への支援や青少年の健全育成、少子・高齢化への対応などの「社会の要請」に応じた現代的課題を取り扱った学習機会を提供する。

そのため、水戸市における生涯学習事業を総称した「みと弘道館大学」に位置付けた、一般教養講座や定期講座を開催するとともに、みと好文カレッジにおける事業を活用しながら、市民のライフスタイルに定着し、生涯にわたって学び続けることができるよう、学習機会の充実に努める。

ア 市民ニーズを捉えた学習機会の提供

市民の学習ニーズを把握し、健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、生涯学習のきっかけづくりを図るとともに、それぞれの世代に合った学習機会の提供に努める。

イ 現代的課題を取り扱った講座の開催

変化の激しい社会情勢に対応していくため、成人学級、高齢者学級等の講座に現代的課題を取り扱ったテーマを組み入れるなどの手法により、地域課題を主体的に捉える学習機会の充実に努める。

また、事業実践集等を活用し、地域団体と市民センターが一体となった協働事業を積極的に展開する。

ウ 家庭教育学級（ふれあい学級）等の開催

家庭は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、思いやりや善悪の判断、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割があることから、家庭教育について考える機会を提供するため、家庭教育学級を開催するほか、未就園児の保護者が家庭教育について学び、各家庭が家庭教育に自主的に取り組むことができるよう支援するため、家庭教育強化事業を実施する。

(2) 学習の成果を生かす環境づくり

生涯学習の成果がボランティア活動や地域づくりに生かせるよう、地域人材の発掘・育成を行い、地域の活性化や特色あるまちづくりに生かしていくための環境づくりを進める。

ア 地域資源の活用推進

市内には、歴史的な資産や史跡をはじめ博物館、歴史館などの文化施設、学校や大学などの物的資源やそれぞれの施設に所属する職員などの人的資源があり、豊かな地域資源に恵まれている。このような地域にある資源を活用した事業を開催するとともに、生涯学習の振興に取り組む機関や団体との連携を図りながら、地域資源の有効活用を推進する。

イ 学習の成果を発表する場の創出

市民センターを会場に開催している講座の展示会や発表会など、生涯学習の成果を発表する場を創出することにより、学習者同士や参加者との交流を拡大させ、新たなネットワーク構築に努める。

ウ 学習の成果を地域活動に生かす仕組みづくり

生涯学習の成果をボランティア活動や地域活動に生かすことが、地域の活性化に大いに役立つものと期待されている。市民センターで学んだ市民が、その成果を地域コミュニティ活動につながるよう、人材の育成と活用に努める。

エ 事業評価に基づく事業の推進

市民センターの講座や事業に参加した市民が日常生活の中で生涯学習の成果をどのように生かし、また、地域の中でどれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。

市民センターにおいては、実施した講座や事業について自己評価を行うとともに、自己評価をもとに、運営審議会等第三者機関による検証を行い、効果的な事業運営を図る。

(3) 家庭・地域・学校の連携の強化

家庭・地域・学校が目標や課題を共有し、それぞれが連携して対応策について取り組めるシステムを構築し、地域社会全体の教育力の向上を図る。

市民センターにおいては、それぞれをつなぎ結ぶ地域拠点施設としての機能充実に努める。

ア 次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む

家庭・地域・学校が相互に連携を図りながら、様々な形で異年齢集団での交流や大人と接する事業など、子どもたちが直接体験する場を提供し、社会全体で次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む活動の推進に努める。

イ 社会全体で支える家庭教育

子どもたちが健全に成長していくためには、良好な家庭環境や社会環境を整える必要がある。そのために、家庭の教育力の向上だけでなく、家庭・地域・学校が一体となって子どもたちの成長を温かく見守りながら、家庭教育を社会全体で支える仕組みづくりに努める。

(3) 令和3年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について

1 運営方針

生涯学習都市宣言を踏まえ、水戸市生涯学習推進基本計画（第4次）に基づく施策を推進するため、全市的な生涯学習の総称である「みと弘道館大学」の開催を通して、どのような状況下でも学びを止めることなく、少子高齢化、高度情報化、地域社会における連帯感の欠如や家庭の教育力の低下等の現代的課題を解決するための学習機会を提供するとともに、学習成果を地域活動やまちづくりに生かしていくための環境づくりを進める。

また、市民の生涯学習活動の振興を図るため、社会教育活動における基礎的なことからより専門的・実践的な知識や技術について、市民センター職員の力量を高める研修の機会を充実させるとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、時代の新たな課題に対応した学習プログラムの開発を進めるなど、市民センターへの支援・指導を強化する。

2 主要施策

(1) 市民センターへの支援・指導

ア 東湖塾の開催

市民センター職員に、生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や家庭教育の支援の強化など、専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会を開催する。

さらに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、現代的課題解決に向けた学習プログラムを研究・開発し、時代にあった新しい講座を先進的な市民センター講座として提案する。

- (ア) 新任職員研修（集合研修、訪問研修）
- (イ) 全体研修（集合研修、ブロック研修、訪問研修）
- (ウ) 学習プログラム作成研修（ブロック研修、訪問研修）

イ 好文塾の開催

東湖塾の学習プログラム作成研修等において研究・開発された現代的課題を取り扱った企画講座が、市民センター事業として根付くよう、市民センターとみと好文カレッジの共同事業として位置づけ、市民センターにおける開催を支援する。

- (ア) 市民センター職員（ブロック単位）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催
- (イ) 市民センター職員（単独）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催

ウ 市民ニーズに対応した学習機会の提供

市民の学習ニーズの把握に努め、「個人の要望」や「社会の要請」に応じた学習をバランス良く提供できるよう市民センターの支援を行う。

- (ア) 市民ニーズを捉えた学習機会の提供
- (イ) 市民センター事業の現状と課題の調査

エ 事業評価の推進

講座や事業に参加した市民が日常生活の中で、学習の成果をどのように生かしているのか、また、地域の中で、どれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。そのため、市民センターにおいては、実施した講座や事業の自己評価を行うとともに、運営審議会等による自己評価に基づいた第三者評価を行い、より効果的な事業運営を進められるよう事業評価を推進する。

また、みと好文カレッジ等による事業評価制度の手法について検討を進める。

- (ア) 市民センターによる自己評価の実施
- (イ) 市民センター運営審議会委員による第三者評価の実施
- (ウ) みと好文カレッジ等による事業評価制度の手法の検討

(2) 全市的な生涯学習の推進

ア みと弘道館大学の開催

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要がある課題、いわゆる現代的課題の解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果がまちづくりや人づくりに生かされるよう内容の充実を図る。

また、時代にあった講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による先進的な学習プログラムを市民に提供する。

- (ア) 茨城しぐさ
- (イ) ゼロからはじめるシニアパソコン教室
- (ウ) 水戸市生涯学習サポーター協働企画講座

イ 子育て応援塾の開催

家庭の教育力の向上を図るため、親としての役割や子どもとのコミュニケーションの取り方を考え、見つめ直す機会を提供する。

- (ア) 家庭教育講座
- (イ) 家庭教育出前講座

ウ 生涯学習サポーターチャレンジ講座「さきがけ塾」の開催

生涯学習活動をとおり、市民と行政とのまちづくりを進めるため、市民生活を豊かにする学習プログラムの企画・実施に参画する人材（水戸市生涯学習サポーター）を育成する。

エ 「水戸市生涯学習サポーター」活動の推進

市民と行政との協働企画講座の企画・実施への参画をはじめ、「さきがけ塾」での学習成果を生かした活動を推進する。

オ パイロット事業の開発・研究

現代社会の課題や人づくりをテーマとしたもの、ICT等の新しい技術を活用した講座など、先進的な講座を開発・研究し、開発した講座を各市民センター等の社会教育施設や地域団体でも実施できるよう支援する。

カ ほっとひといき夢らんの開催

家庭教育支援事業の一環として、1歳6ヶ月から3歳未満までの未就園児とその保護者を対象に、親子で活動する場と親同士、運営ボランティアとの情報交換の場を提供することによって、育児に対する悩みやストレスを解消できるよう支援する。

キ 「あなたも師・達人制度」の活用促進

「あなたも師・達人制度」の登録指導者の募集や活用を広報「みと」やホームページ、情報誌などの各種広報媒体により周知を図るとともに、市民センター等の社会教育施設やPTA、ボランティア団体、NPO等が主催する講座や研修会の講師として積極的に紹介し、登録指導者の有効活用を促進する。

ク 育児ボランティア制度の活用促進

子育て中の保護者が生涯学習活動に参加できるよう、講座開催中に別室で子どもを預かる「育児ボランティア制度」の活用促進と登録ボランティアの拡充を図るため、市民センター等の社会教育施設や社会教育関係団体に積極的に紹介し、制度の有効活用を促進する。

ケ 学習情報の提供の充実

生涯学習活動を推進するため、みと好文カレッジ事業等を掲載した生涯学習情報誌の発行や新しい情報のホームページへの掲載など、生涯学習活動を積極的にPRする。

コ 学習相談事業の充実

市民やボランティア団体等からの生涯学習相談に対し、適切で役立つ助言ができるよう、各種生涯学習情報の収集と整理を行う。

サ 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有化するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図る。

シ 水戸市訪問型家庭教育支援事業の**拡充**

地域人材を活用した家庭教育支援員を派遣し、家庭でのしつけなどに悩みを持つ保護者への**個別訪問等の拡充を図る**。

令和3年度予算額内訳（案）

10 教育費	5 社会教育費	7 みと好文カレッジ費	生涯学習課(みと好文カレッジ)	
125-003	みと好文カレッジ運営経費		単位:千円	
節	3年度 当初予算 A	2年度 当初予算 B	差引増減 A-B	摘 要
01 報酬	126	126	-	みと好文カレッジ運営審議会委員報酬
07 報償費	2,431	2,396	35	講師謝礼等
08 旅費	20	20	-	職員研修旅費
10 需用費	1,326	1,439	△ 113	行事務用品等
11 役務費	593	649	△ 56	切手代, 行事保険料等
12 委託料	108	102	6	ホームページ管理等委託等
13 使用料及び賃借料	325	305	20	会場使用料, バス借り上げ料等
26 公課費	7	12	△ 5	自動車重量税
合計	4,936	5,049	△ 113	

特定財源

款	3年度 当初予算 A	2年度 当初予算 B	差引増減 A-B	摘 要
16 国庫支出金	230	230	-	訪問型家庭教育支援事業費補助金 690千円×1/3
特財計	230	230	-	
一般財源	4,706	4,819	△ 113	

○ 各事業の予算

費目名	みと弘道館大学						東湖塾		好文塾		えくぼ会		夢らんど		さきがけ塾		塾生企画講座		家庭教育講座		家庭教育出前講座		訪問型
	茨城しぐさ		シニアパソコン教室		サポーター企画講座		R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3
	R3	R2	R3	R2	R3	R2																	
報償金	56,000	70,000	80,000	80,000	642,000	583,000	30,000	30,000	100,000	100,000	40,000	40,000	260,000	270,000	270,000	270,000	150,000	150,000	30,000	30,000	120,000	120,000	653,000
消耗品費	5,000	10,000	15,000	20,000	90,000	80,000			20,000	20,000	10,000	19,000	200,000	190,000	100,000	100,000	10,000	10,000	20,000	20,000	20,000	20,000	22,000
食糧費																							5,000
印刷製本費															38,000	48,000							
通信運搬費										8,000	8,000			45,000	45,000			20,000	10,000				2,000
火災保険料										19,000		5,000											8,000
事務事業等委託料																		42,000	36,000				
賃借料			10,000	10,000					142,000	131,000					169,000	160,000							
合計	61,000	80,000	105,000	110,000	732,000	663,000	30,000	30,000	262,000	251,000	77,000	67,000	465,000	460,000	622,000	623,000	160,000	160,000	112,000	96,000	140,000	140,000	690,000

単位:円

家庭教育	合計	
	R2	R3
653,000	2,431,000	2,396,000
20,000	512,000	509,000
5,000	5,000	5,000
	38,000	48,000
2,000	75,000	65,000
10,000	32,000	10,000
	42,000	36,000
	321,000	301,000
690,000	3,456,000	3,370,000

○ 各事業の予算

(単位:円)

		R2年度	R3年度(案)	内 訳							
				報償金	消耗品費	食糧費	印刷製本費	通信運搬費	火災保険料	事務事業等委託料	賃借料
みと弘道館大学	茨城しぐさ	80,000	61,000	56,000	5,000						
	シニアパソコン教室	110,000	105,000	80,000	15,000						10,000
	サポーター企画講座	663,000	732,000	642,000	90,000						
東湖塾		30,000	30,000	30,000							
好文塾		251,000	262,000	100,000	20,000						142,000
えくぼ会		67,000	77,000	40,000	10,000			8,000	19,000		
ほっとひといき夢らんど		460,000	465,000	260,000	200,000				5,000		
さきがけ塾		783,000	782,000	420,000	110,000		38,000	45,000			169,000
家庭教育講座		96,000	112,000	30,000	20,000			20,000		42,000	
家庭教育出前講座		140,000	140,000	120,000	20,000						
訪問型家庭教育支援事業		690,000	690,000	653,000	22,000	5,000		2,000	8,000		
合計		3,370,000	3,456,000	2,431,000	512,000	5,000	38,000	75,000	32,000	42,000	321,000